

ICT夢コンテスト 実践事例応募用紙

※この応募フォーマットはホームページよりダウンロードしてください。

類似のコンテストに入賞歴の無い事例が対象です。有無を右欄に記入ください。	無
--------------------------------------	---

この実践事例は下の要素の何々を含んでいますか。該当する項目の左に ● を記入してください。複数選択可です。

<input type="checkbox"/> 効果的な授業	<input type="checkbox"/> 児童生徒の資質・能力向上	<input type="checkbox"/> 教員研修	<input type="checkbox"/> ICT活用指導力向上
<input type="checkbox"/> 校務の情報化	<input checked="" type="checkbox"/> 保護者や地域への情報発信	<input type="checkbox"/> ICT環境整備	<input type="checkbox"/> ICT活用サポート
<input type="checkbox"/> ICT活用推進	<input type="checkbox"/> 学校運営・管理	<input type="checkbox"/> 保護者や地域による学校支援	<input type="checkbox"/> 地域での児童生徒学習支援
<input type="checkbox"/> 学校行事	<input type="checkbox"/> 通級指導教室・特別支援学級	<input type="checkbox"/> その他 (

学校又は団体名 (実践時)	枚方市教育委員会		
団体種 (校種、NPO 等)	教育センター (教育研究所等含む)		
応募者 <small>氏名漢字、職名、氏名カナ、 学校又は団体名(実践時) 上記と異なる場合のみ記入 ※連名での応募も可</small>	応募者※1	浦谷 亮佑	係長
	連名者 (3名まで)	井手内 太吾	主幹
		倉田 仁司	主幹
学校や団体への所属年数(応募者)	3	ICT夢コンテストの参加を含む応募回数(応募者)	1

実践事例タイトル <small>※40文字以内・カタリは不可</small>	クラウドを活用したポータルサイトの構築と教職員による実践事例の共有		
実践の特長 (先進性、普及性) のどちらか一つ選択 <small>※どちらかといえば該当すると思う方の項目の左に●を記入</small>	<input type="checkbox"/> 先進性	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> 普及性

下記項目は改行せずに記入をお願いします。自由記述ですが審査の参考としますので、必ず記入(なければ“特に無し”)をお願いします。

教科もしくは分野	クラウド活用 / 授業実践 / 授業支援 / 教職員研修 / 校務支援
対象者 (学年・他)	市民 (保護者、児童・生徒だけでなく、インターネットに接続できる方は閲覧可能)、市内教職員
教科の単元 (わかる場合のみ記入 複数可)	
実践場所 (遠隔、PC 教室、体育館等)	枚方市立教育文化センター内
実践時期	2021年5月～現在
活用した ICT 機器、教材、環境等	デジタルデバイス、Google ドライブ、Google サイト、ネット環境

アンケートをお願いします。コンテスト企画運営の参考にさせていただきます。 本コンテストをどのようにお知りになりましたか。● を記入してください。複数選択可です。			
<input type="checkbox"/>	案内ポスター	<input checked="" type="checkbox"/>	前から知っている
<input type="checkbox"/>	案内チラシ	<input type="checkbox"/>	事務局メール
<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	教育委員会からの紹介
<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	ニュース媒体から
<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	上司や友人・所属団体からの紹介
<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	JAPET&CEC ホームページより
ご意見			

- ※1：連名の場合、「応募者」は自ら実践し自ら事例を執筆したご本人とし、かつ事務局からの直接の連絡先としてください (実践の際の監修者や上司、自治体・学校等の協力者などを「応募者」とはしないでください)。
- ※2：連絡先住所は、事務局からの郵送物を受け取れる住所をご記述ください。また、E-mail 及び電話番号は、事務局から連絡を取らせていただけるものをご記述ください。
- ・応募事例に、図や写真を組み込むことでより実践が分かりやすくなるようにしてください。
- ・フォーマットの変更はしないでください (実践内容部分も2段組にせず、1段組のまま記述してください)。
- ・参照URL、QR コードの使用は不可です (応募書類以外の情報は審査対象外です)。
- ・表紙記述1頁と実践事例内容記述2頁以内、計3頁以内で纏めてください。それ以上は受理できません。
- ・実践事例の記述はMS明朝11ポイントのフォントを使用してください、また46文字/行を目安としてください。

実践の概要（実践内容を5行以内で簡潔にまとめる）

(1)～(3)項目の記述配分は自由です。

1人1台端末と高速通信ネットワークの環境整備により、市内小中学校での教職員の実践が一層充実した。実践事例についても、「授業改善」だけではなく、「働き方改革」「校務支援」「学校事務職員による実践」など多岐にわたる。それらの実践を一手に集約したポータルサイト「GiGA スク! ひらかた」と教職員研修や校内研究に特化したポータルサイト「まなViVA! ひらかた」の2つを構築した。本実践は、学校や教職員の実践を広く発信するための「入り口 (=ポータル)」となることをねらっている。

(1) ICT活用の目的とねらい

本実践は、令和3年(2021年)5月より運用を開始した実践である。これまで、市立小中学校において授業改善や働き方改革など、多くの研究を進めてきた。しかしながら、各学校の研究成果や実践事例の保存場所が様々であったり、保存容量に限りがあったり、研究成果をポートフォリオ的に蓄積していくことに課題があった。さらに、教職員が他校の好事例を参考にしたくても、事例を見つけることが困難な場面もあった。また、既存のホームページでは、容量の関係で動画等を掲載することが難しく、本市の取組を分かりやすく情報発信することにも課題があった。

本実践では、Google が提供するサイト構築アプリケーションとクラウドサービスを活用し、2つのポータルサイトを構築・運用している。ポータルサイトを運用することで、教職員が学べる環境を整備すること、本市の取組を広く情報発信することを本実践の目的とする。(写真1・2)



(写真1) GiGA スク! ひらかた



(写真2) まなViVA! ひらかた

(2) 実践の特長・工夫（先進性があるか または普及性があるか）

今回、構築した2つのポータルサイトの特長及び工夫については以下のとおりである。

① 「GiGA スク! ひらかた」

枚方市内の取組(教育やイベント等)を写真や動画を効果的に活用して広く情報発信するためのポータルサイト。誰でも閲覧可能なページと教職員のみが閲覧できるページとに分かれている。

【クラウドサービス活用、アプリケーション連携で可能性は無限大】

Google が提供しているクラウドサービスを活用することにより、場所や端末にとらわれることなく作業することが可能である。また、クラウドの容量を気にすることなく写真や動画をポータルサイト内に掲載することが可能であるため、実践を視覚的に分かりやすく紹介することが可能である。(写真3) また、Google の他のアプリケーションをポータルサイト内に組み込み、連携を図った。本実践では、Google スプレッドシートのリンク機能を活用して「新着情報」を作成した。これにより、(写真4) 必要な情報に瞬時にたどり着くことが可能になった。



(写真3) 写真や動画で見やすさUP!



(写真4) 新着情報の活用

【様々な分野の実践事例を紹介することで普及性を生む】

現在、本ポータルサイトで紹介をしている実践は次のとおりである。「教職員研修」「ICT 利活用に関する教材」「プログラミング教育の教材」「学校事務職員による実践事例」「授業実践事例」「授業マイスターによる授業実践動画」(写真5)

昨年度、1人1台タブレット端末導入に合わせ、ICT の操作が苦手



(写真5) 様々な分野での実践事例

な教員や経験年数の少ない教員の授業づくりのボトムアップをねらった動画教材を全20話分、プログラミング教育の授業実践を紹介した動画教材を3本製作した。また、市立小中学校の教職員の授業実践事例を400本収集した。それらの事例を、検索機能を加えて紹介することにより、学校を超えて実践を共有することが可能となった。さらに、本市が認定した授業マイスターの授業について、その実践事例と動画を掲載している。授業づくりに悩んでいる教員にとっては、現地に行かなくても優れた授業や子どもの様子などを視聴でき、自身の授業づくりの大きな参考となる。

②「まなViVA! ひらかた」

市内研究校の実践や本市主催の教職員研修に係る資料を一カ所に集約し、教職員が「いつでも・どこでも・何度でも」知りたい実践や情報を瞬時に見つけ出すことができるポータルサイト。本市教職員に発行している専用アカウントとパスワードでのみ閲覧が可能である。

【教職員の学びと授業改善へ大きく貢献】

教職員研修の様子を録画し、本ポータルサイトに掲載することで、研修を受講できなかった教職員やもう一度学びたい教職員が時間や場所の制約を受けずに学ぶことが可能である。それにより、研修内容が一層浸透し、教員の授業改善に大きく貢献すると考える。(写真6・7)



(写真6) 校内研究の実践を掲載

(写真7) 研修動画アーカイブ

いつでも・どこでも・何度でも視聴可能

教職員の授業改善により、子どもの学びがさらに深まり、学習指導要領のめざしている「主体的・対話的で深い学び」の実現に寄与する。研修動画には、権限設定を変更することができ、受講者がコピーやダウンロードができない設定にしておくことで、研修動画の二次利用を防ぐことができる。

(3) 実践の成果 (子どもたちや教員はどう変わったか、絆の深まりは見られたか等)

【学校を超えた教員間の絆の深まり】

教職員の実践を収集し、積極的に発信することで優れた実践を市内全体で共有することが可能となった。特に、授業実践事例については、現在400事例を超えており、今後も増えていく予定だ。(写真8) 事例は、見やすいようにA4用紙1枚にまとめている。内容としては、授業のねらいや流れ、ICTの活用場面や成果と課題が明記しており、参考にした教職員が自身の授業へ活用できるように工夫している。また、学校名や授業者名も記載しているため、より深く知りたい場合は、直接担当者同士で連絡を取り合うことも可能である。

400事例を収集!



(写真8) 授業実践事例

【本実践の今後の可能性 ~PDCAサイクルによる内容の充実をめざして~】

本ポータルサイトのアクセス数や閲覧数等については、分析ツールを活用することで、現状をリアルタイムで把握することができる。各ページの閲覧者数やクリック数などを分析することで、教職員のニーズに合ったポータルサイトへブラッシュアップすることができる。今後は、「支援教育」「学校事務職員」「栄養教諭」「養護教諭」などの実践事例の充実もめざす。



(写真9) 分析ツールでアクセス数の視覚化を実現

さらに、メール機能と連動した登録型のプッシュ型情報配信に向けて準備中である。発信者側から内容を更新するたびに通知する。これにより、利用者は自身に必要な情報が更新された場合に、ポータルサイトにアクセスし、情報を得ることができる。

各学校の研修や実践を本ポータルサイトに集約させることで、情報を探す時間や労力が軽減される。

また、授業づくりに悩んだ場合でも、授業実践事例を参考に授業計画を組み立てることもできる。これにより、教職員が子どもたちと向き合う時間を確保できると考えている。今後も、各学校の研究や教職員の実践事例を掲載し、本市の取組を積極的に発信していきたい。